

1 開会

2 新嵐山活用計画の改訂に至る経緯について：芽室町魅力創造課新嵐山再生担当参事

・「新嵐山活用計画」とは

新嵐山のあるべき姿を明確にし、具体的なビジョンを示したもの。

町の重要な観光拠点である新嵐山の資源を有効活用し、再整備を加速するため、2020年3月に新嵐山活用計画を策定。本計画は、新嵐山のあるべき姿と具体的アクションを示しながら、地域価値をつなぐ、人と人をつなぐエリアとして、新嵐山スカイパークは【この町にしかない地域価値を体験できる農村地帯の宿】を目指している。

その後、同年12月に既存施設のリノベーション（再生）にかかる概算事業費を示すと共にプラン（個別事業の実施年度・事業内容）を見直すため、活用計画を改訂している。

・「新嵐山活用計画の進捗状況」

グリーン期は「新嵐山の特徴づけに注力した新しい価値観のアピール」として、外で食事を楽しめるフォレストテラスやグランピング、ドッグランなどエリア全体を統一したコンセプトで括りながら、付加価値を加えた商品提供を行っている。2021年に本格的な改革のスタートとして、キャンプ事業の再開に取り組み、これを契機に、ファミリー利用の推進に注力することでグリーンシーズンの賑わいを取り戻す結果となった。

わんぱく広場やハンモックフォレストなど地元の子どものための「遊ぶ」が増えている。

ウィンター期は「多様性のあるファーストタイマー（初心者）に優しいフィールド」としてスノーキャンプにグランピング、ファットバイクダウンヒルなど、スキーやスノーボード以外でもゲレンデを楽しめる新たな遊びが増え、ゲストの満足度向上に繋がっている。キャンプ事業の通年実施をはじめ、スキーをしないノンスキーヤーの利用促進など様々な雪遊びができる場としての取り組みを進めることで、新規利用者の増加にもつながる結果となった。

・「新嵐山改革の課題（町が悩んでいること）」

これまでは、比較的投資額の少ない事業から進めてきたが、今後は宿舎やリフト設備など大規模な投資が必要となる。課題としては大きく2つ。

農村地帯として魅力を高めるため、活用計画に沿った事業を推進したいが、コロナの影響の長期化や物価高騰など環境変化への対応が求められており、事業の見直しが必須であること。現有施設の老朽化が激しく、利用して頂く販売商品として、劣化を防ぐための対応は待ったなしの状況であり、「宿泊施設をどうするか」「スキーリフトの更新をどうするか」これまで利用してこなかった方や、しばらく利用されなかった方から「新嵐山がすごく変

わった」と高評価を頂いている一方で、これまで利用されてきた方からは、利用しづらくなったとの意見を頂いており、町民ニーズの把握・計画への反映が必要であること。

・「新嵐山スカイパーク自分ごと化会議の設置」

新嵐山を取り巻く環境変化への対応と活用計画に対する町民ニーズの把握及び反映のため新嵐山スカイパーク自分ごと化会議を設置し、活用計画の検証を行うこととした。

この会議の目的は、「新嵐山活用計画の見直し(検証)」であり、その見直しにあたっては、新嵐山スカイパークの事を他人事ではなく、自分事として考える「新嵐山スカイパークの自分ごと化」である。

この会議のゴールは、町民ニーズを把握するため、町民委員の意見を取りまとめ、提案書を作成、町へ提出し、提案内容を活用計画に反映することである。

3 「自分ごと化会議」とは

講師：一般社団法人 構想日本 総括ディレクター 伊藤 伸 氏

・自分ごと化会議の一番の特徴は、無作為抽出という方式を採ること。

これまで行政が住民の意見を聞く手法として、圧倒的に多いのは広報誌やホームページによる公募方式。この場合、ごく少数の特定の方が手を挙げるケースが多く、属性は高齢者で男性が多い。もう一つが推薦や一本釣り方式。この場合はあて職が多い。

この2つの手法を否定している訳ではないが、この方式で選ばれた方の意見が民意全体の意見とは言い難いので、構想日本では2009年から無作為抽出という方式を自治体の計画づくりや事業評価の中で導入する支援を行っている。

・自分ごと化会議のねらいは2つ。

身近な問題を政治・行政に任せるだけでなく、自分の事として町のことを考えてみること。具体的に行政の取り組みについて考え、課題解決を目指すこと。今回の場合、新嵐山スカイパークをどのように見直すのが良いのか、その課題と解決策を考えること。

・基本的な考え方は3つ。

①無作為抽出。今回は住民基本台帳から2,000人をコンピューターがランダムに抽出し、案内を送付。その案内を受けた方(抽選に当選された方)の中で、さらに手を挙げてくれた方が今回の委員となっている。

②地域の課題について生活から見える現象を住民間で議論。これまでの行政の会議や審議会、ワークショップは、ある程度のシナリオを作り、その中で住民意見を聞こうというケースが多くみられた。この自分ごと化会議にはシナリオがない。今回は1回目に自己紹介や新嵐山スカイパークについて感じていることをお話いただき、そこから2回目に議論するポイントを作っていく進め方。したがって、2回目以降どのように進み、どのように纏まるのかわからない。委員皆さんの議論の中から作っていくものである。これを行う上で重要なのは

外部の人間がコーディネーターを務めること。仮に、芽室町の職員がコーディネーターとなる場合、委員もコーディネーターも当事者となってしまい、対決の構図になりがちである。対決や批判ではなく、一緒になって考える場にしたいので外部のコーディネーターで対応している。

③行政がどうした方が良いというだけの議論が多いが、自分で何ができるか（町内会やグループなど）も一緒に考えること。

・今回の提案書には、行政が何をした方が良いかを示すだけでなく、自分たちでできること、地域でできることも書かれている。ただし、この提案書は芽室町民を縛るものでも、町内会で活動することを強制されるものではない。あくまで、今回参加された委員が、いろいろな話し合いの中で出された提案の一つである。ただし、この提案書を読んだ100人のうち、一人でも項目にある1つをやってみようとなるのが大きな一歩であり、自分たちでできることを考えるのが非常に重要である。

それをするために、委員には毎回改善提案シートを書いて提出してもらい、最終的に完成した提案書は、参加された委員が作りあげたものである。

・この議論を進める中で素人の住民にお願いして良い提案ができるのかと指摘を受けることがある。しかも抽選で選ばれ、どのような人かもわからないからという意見であるが、全く当たっていない。

しっかりとした計画を作るのであれば、学識経験者や大学講師などを集める方が良いかもしれないが、自身の実感として、これらの方々の発言と実際に生活している人とのギャップがどんどん開いていると感じている。

自分ごと化会議では、住んでいる皆さんの生活実感が入口となり、何をすべきかではなくどうありたいのか。新嵐山スカイパークをどのようにしたら自分は使いたいと思うのか、周りの人に勧めたいと思うのかというところを議論のポイントにしてきた。

・一度も新嵐山を利用したことがないという委員もいたが、これ自体もまさに住んでいる人の生活実感の一つである。スキーには来るけど、夏は利用しない。これも本当の実感からくるコメントである。これこそがとても重要であり、実際に感じて発言する言葉から対話をしながら、最終的に何が必要なのかを作っていくことが自分ごと化会議である。

・芽室町の自分ごと化会議の特徴は3つ。

①実施に至る経緯として、最初に芽室町で自分ごと化会議に関する講演を行ったのが2022年7月の議会研修会。町長にも参加いただき、講演終了後に新嵐山スカイパークをテーマとした自分ごと化会議の可能性について話をした。そこからスタートして、12月に第1回目の会議が開催された。これまで構想日本と自治体との仕事を相当数行ってきたが、これだけのスピード感で出来たのは、今回が初めて異例のスピードである。

加えて、自分ごと化会議については、議会側が関心を持っていて、色々やり取りを行ってきたが、議会と行政が具現化したという点では、議会と行政が連携したプロジェクトとしてとても良い事例の一つである。

- ②参加者の属性。世代別の応募率で30代が2.8%と全体の応募率2.3%よりも高い。他自治体よりも若い世代の比率が高くなっている要因である。結果として、応募者46人のうち、7割が49歳以下であり、これは過去に実施した自治体の中でもトップクラス。世代別の応募率があまり変わらないという傾向は大きい点である。
- ③議論の仕方。コーディネーターと自分ごと化委員と芽室町の職員が一緒になって議論していく手法を進めた。3回目には外部の専門的な視点として外から刺激を与えてもらう役割のナビゲーターを交え、成功事例だけでなく失敗事例も紹介いただきながら問題提起をしてもらった。
- ・会議に参加された委員へのアンケートで見えてくるのが、このような会議に参加する前に役場との関りがあったかという点で、ほとんどないという方が中心である。
 - ・無作為抽出により参加した住民の特徴は、もともと役所との接点が少ない。ただし、社会的な関心は高く、自助公助の意識がとても高い方々である。
 - ・いままで政治も行政も住民の皆さんに対し、ちゃんとしたアプローチ、しっかりと声を聞くことができていなかったのではないかと、その意味でこの無作為抽出方式が広がれば良いと思う。
 - ・参加された委員が、その後OB・OG会を結成するケースもある。ぜひ、芽室町でもその動きになれば良いと感じている。
 - ・芽室町も人口は減少傾向にあると思うが、日本全体の人口は間違いなく減少する。ただし、減少した時にそこに住み続ける人の満足度をどうしたら維持もしくは高められるかということをもっと考えていく必要がある。それを考える時には行政だけではなく、住んでいる人たちも一緒になって考えなければ満足度の向上につながらないと思うので、それぞれが町のことを自分ごと化できるかがポイントである。
 - ・このように多様な人たちがしっかりと考え、議論していくと自ずと良い結果が導き出されるというのが無作為抽出という方式を十数年実施した感想である。

4 新嵐山スカイパーク自分ごと化会議からの報告

- ・別紙「新嵐山スカイパーク自分ごと化会議からの提案書」として、5つの改善提案の項目を示している。
- ・提案書の概要は、自分ごと化会議のコーディネーターを務めた構想日本伊藤氏より説明。
- ・参加した委員から会議に参加しての感想（4人発言）。
- ・新嵐山スカイパーク自分ごと化会議から町長に対し、提案書の手交。

5 講評：芽室町長

- ・ 審議会委員などの公募に苦慮している状況で、このような方式（無作為抽出）はこれからの住民参加のあり方として、一つの大きな手法になると感じている。
- ・ 自分ごと化会議からの意見を後ろ盾にしながら、活用計画改訂に向けた議論を重ねていく考えである。
- ・ 活用計画にすべて盛り込むことは難しいが、そのイズムや考え方は、しっかり取り入れていきたい。
- ・ 非常に印象的だったのが「町民の愛せない場所は、外からも愛せない」あるいは「一流のB級リゾート施設を目指す」でインパクトがあった。当初の考え方は町外から来られる方に魅力を感じてもらえれば、それは、町や町民にとっても魅力あるものになるというシナリオであったので切り替える必要性も感じている。
- ・ 利用される方や利用されない方、関心を持つ方や関心を持たれない方など、様々な町民に対し、皆さんのご意見を参考とした活用計画を説明していく中で情報発信、意見交換していきたい。
- ・ 町として、改訂版の活用計画を作った時点で委員にも報告、説明していきたい。

6 芽室町長と構想日本伊藤氏との意見交換

（伊藤氏）講評における町長の発言でイズムという言葉があった。計画づくりをするうえで行政は文書主義の部分があるので意見が文書として入っているか、どういう表現で入っているかを重視する。こうしたことに囚われすぎるので、イズムはとても大切である。一流のB級リゾート施設という考え方を持った活用計画の見直しを行うこと。個別の事業を比較しても他のリゾート施設には勝てないし、札幌圏の飲食店に勝てないけれど、敷居を低くし、町民や周辺の人でも来やすい場所が安心な新嵐山であるという考え方になっていると思う。その部分をどのようにイズムに入れていくかをお伺いしたい。

（町長）今回の提案書をしっかりと読み込み、出された意見の真意を突詰めながら進めていく。活用計画の内容についても町の考え方を明確に説明できるように作る考えである。

（伊藤氏）提案書に書かれている文章表現の中心は自分ごと化会議委員の言葉であり、計画にそのまま使用すると誤解を招くこともあるからこそ、その言葉の背景が大切である。

議会と行政が連携したプロジェクトとして、今後において、議会と前向きな対話ができれば良いと感じている。

(町 長) 町民に対しては、積極的に地域へ赴きながら、計画内容や町の考え方を説明していく考えである。

(伊藤氏) 自分ごと化委員が住民説明会に参加し、発言するケースが他自治体で見られた。計画に込められたイズムや魂を自分ごと化会議に参加していない他の人に伝える例でもあった。

(町 長) できれば自分ごと化会議委員には応援団になっていただきたいと思う。

(伊藤氏) 今回の提案書は拘束力があるものではない。民意の代表ではなく、抽選で選ばれ手を挙げてくれた方々が一緒に議論し、まとめたものという位置づけである。他の国では民意の代表として議論するケースが多いが、構想日本ではその手法を採っていない。それを行うと参加者が普段着の言葉にならない可能性がある。何をしたいかという実感から出る言葉の積み重ねとして、今回の提案書の位置付けとしている。

【質疑・意見】

- ・新嵐山改革は、そこで働くスタッフの意識も重要である。
過去に実施した産業観光まつりのような適度なイベントが必要である。
今回提案のあった内容などを一度取り入れ、実施してみるのも良いのではないか。
- ・新嵐山に期待を持って、前向きに何年かかっても改革していくことが前提にあり、新嵐山のことは見捨てないという意向を感じる。
議会との議論の中では、町民主体の会議により意見が出された点を踏まえ、町民のために内容を精査した上で前向きに取り組んでいただきたい。
ある程度の税金が投入されることは理解している。新嵐山を少しでも発展、維持させていくことが芽室町にとってはプラスになると思う。

7 閉会